



# TAKOかわら版

平成 27 年

Vol.3

## ～地域と共に コミュニティ・スクール～



### 「コミュニティ・スクール」 とは？

「コミュニティ・スクール」（学校運営協議会制度）は、保護者や地域の方々などで構成される「学校運営協議会」を通じて、よりよい教育を目指すという、地域に支えられる学校づくりの仕組みです。





# 多古高校は、人と人のふれあいを大切にしています。



## 平成27年度開放講座 第1回「春の花寄せ植え」

地域の方と、生産流通科の生徒と一緒に学習するのが開放講座です。生徒たちは学びなれた農場で、学習のお手伝いをする中で、農業の楽しさや働くことの意義を学習します。地域の方々の笑顔が生徒にとっての励みです。

### 生産流通科産物販売

自分たちで作った野菜を買ってもらって嬉しさ!! 生産流通科でよかった、と思う時間です。

このスタイルで町に販売に行きます!



開放講座 第3回「うどん作り」

### 朝の挨拶運動

毎朝、コミュニティ・スクール委員の方々が校門に立ってくれます。一日の始まりが、明るい挨拶で始まります。



妙興寺インターシシップ中学生のみなさん



「多古の子 町の子 みんなの子」

「地域と共に歩む多古高校」

学校運営委員

「小中高・地域連携」担当

並木 昭靖



多古町は、子供園をはじめ、小学校5校・中学校1校・高校1校と幼児から高校生まで、一貫した教育システムが整っている、素晴らしい教育環境の町です。

しかし、急激な子供の減少で、地元多古高校への進学率も少なくなっています。

昨年度、「多古の子 町の子 みんなの子」集会 実行委員会で、多古高校への進学率の減少について、話し合いをしました。

はじめは「多古町に高校は必要か」「どうして多古に高校があるのか」「地元の子どもが三〇%しか、進学しない原因は何か」、など、多古高校の存続のことが上げられました。しかし、もっと肝心なことは、子供たちの地元への愛着心や関心度、地域住民・大人の理解や関心を高めていく必要があると、昨年十一月に 地域住民、児童・生徒に理解して頂くために、「子どもと大人と一緒に考える集会」を開催しました。

この集会のアンケートから、地元多古高校の活性化、魅力ある学校づくりを町が中心に